

単元名 ボール運動(ネット型)ソフトバレーボール

配当時間 8時間

単元の目標 (1) ネット型では、その行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。
 (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
 (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100205_001

【準備等】ソフトバレーボール、ビーチボール、学習資料、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ソフトバレーボールのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームで連携して相手コートにボールを打ち返そう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○ソフトバレーボールに関連した、体ほぐしの運動をする ○試しのゲームをし、課題をつかむ。 <p>2～4 ソフトバレーボールを基にした簡易化されたゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組でのパス、チームでのパス、ネットをはさんでのパスなど ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナーなど <p>5～6 チームに合った作戦を工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習方法、ルールなど <p>7～8 ソフトバレーボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ソフトバレーボール大会をする。 ○第8時は、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を理解させる。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・コートはバドミントンコートのサイズを目安とする。 ・1チーム1～2試合行う。 ・1試合7分程度で行う。 ・レシーブ、パスなどについてルールを簡易化したゲームを行う。 <ルールの例> 4人制、3～5回で返球する、ワンバウンド可、サーブはどこから打ってもよい、サーブは下から打つなど ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じチームと2ゲーム以上行うことを知らせる。 ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・チームに合った作戦を立てさせる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

ソフトバレーボールは、チームの連携による攻撃や守備によって攻防をするゲームである。本単元では、基

礎技能をラリーゲームなどで楽しく身に付けさせ、簡単な作戦を立て、いろいろなチームとゲームを行う学習と対戦相手を決め、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・片手、両手もしくは用具を使って、相手コートにボールを打ち返すことが苦手な児童には、飛んできたボールを短時間保持することを認めたり、うまくはじくことができる児童と比較してどこが違うか考えたりする場を設定するなどの配慮をする。
- ・自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れることが苦手な児童には、手を使って投げ入れたり、軽い用具や柄の短い用具を用いたり、軽いボールを用いたり、一歩前からサービスをすることを認めたり、ネットの高さを低くしたりするなどの配慮をする。
- ・味方が受けやすいようにボールをつなぐことが苦手な児童には、飛んできたボールをキャッチしてパスしたりすることができるようにするなどの配慮をする。